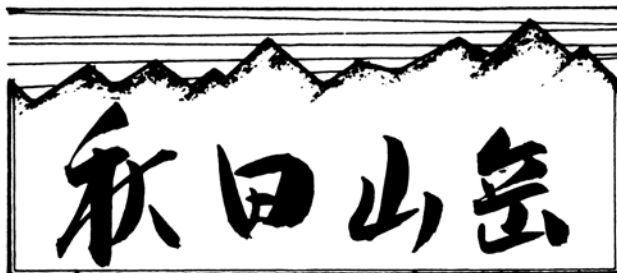


2017



平成 29 年 9 月 発行

No. 105

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野  
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX018(823)2708

発行者 今野 昌雄

編集者 鈴木 裕子

## 東北・北海道地区集会

### 東北・北海道地区集会に参加して 今野昌雄

第三十三回東北・北海道地区集会は、岩手支部主管で、全国的に有名な民話の里、遠野市のたかむろ水光園と六角牛山（一二九四・三m）を会場に、五月二十七日（土）、二十八日（日）に開催された。

二台の車に分乗して秋田市を出発したが、集会の時間まで余裕があったので、前にも来ておられる佐々木民秀顧問や会員の案内で、続き石、五百羅漢、山崎のコンセイサマなど観光してから会場へ向かう。

参加者は、北海道二名、青森八名、秋田九名、宮城五名、山形六名、福島十一名、岩手二十名の合計六十一名の参加者であった。

二十七日十四時から受付、支部長会議では昨年の秋田主管の森吉山・桃洞滝への協力にお礼を述べた。各支部の報告の後、来年は山形支部の主管が決まった。

また、西山泰正北海道支部長からは来年の全国支部懇談会は、北海道支部主管で大雪山・黒岳で開催するとの案内があった。この後、全体集會が行われ、阿部洋子岩手支部長の歓迎の挨拶に続き、高橋時夫岩手県山岳協会会長（JAC会員）から、昨年の岩手国体への感謝、山の日や柳田国男と遠野の里に関する挨拶があった。

記念講演は、元朝日新聞盛岡総局長の木瀬公二氏による「遠野の山々と遠野物語」であった。私は以前、カッパ

淵でキュウリをつけた釣竿を流れにおろしている数名の観光客を見たとき、この浅い小川に河童が現れるわけがないと思つた。この度の講演を拝聴して、柳田国男の河童や座敷童の物語は、江戸後期から明治、大正、昭和と飢饉等あつた閉鎖社会の中で語り継がれてきたことがおこりえたことと納得した。

また、木瀬さんの、むのたけじさんに関する記事（朝日新聞平成二十九年三月三十一日掲載）「再思三考」むのたけじの遺言 大勢いる「連子窓の弟子」も心に残つた。ちなみに、むのたけじさん（百一歳で逝去）のお墓は、私の住む大仙市神宮寺の法蔵寺にあり、お墓参りの時には、合掌したこともあり

ます。十八時から二十時までは盛大に支部交流、懇親会、二次会は南部曲り家に移り、希望者で行われた。翌朝、峠登山口で七時半バス下車、準備体操、阿部陽子岩手支部長の説明、八時五十分出発、阿部支部長の適切なトップ誘導のすぐ後を、秋田支部は堀井副支部長に続いて登つた。雑木林やマツ、ナラ、登るにつれブナもあり、昔から登られてきた山で、四合目休み石から急登も続くが足場もしっかりした、趣のある山である。ゆつくり登り、二時間二十分で山頂に到着。残念ながら、ガスで展望利かず、風もあり、昼食も早く切り上げる。十一時三十五分に下山を開

始し、バスの待つ駐車場に着いて十四時十分には解散。

解散の後、かっぱ淵を観光。

二十九日には、釜石の旅館を出て薬師公園、鉄の歴史会館玄関前、大船渡の一本松、猊鼻溪船下りを見て回つた。ここでは、鳶が水面の数羽のカモのヒナの群れをめぐり、何度も急降下、母親カモも必死で防戦するが、ついに一羽のヒナがさらわれるところを目にした。船の上で聞いた船頭さんの南部牛追い歌も両岸の緑とゆつたりした流れの中で素晴らしかった。

車の運転手の鈴木裕子副支部長、石川祐子、佐々木長秀両役員の安全運転にも感謝している。楽しい東北・北海道地区集会と小さな旅ありがとうございました。

参加者 今野昌雄 佐々木民秀  
福田光子 鈴木裕子 堀井弘  
石川祐子 柴田勸 佐々木長秀  
佐々木悦子



たかむろ園の前で

太平山山開き市民登山に参加 鈴木裕子

六月十一日(日)、太平山県立自然公園整備促進地域協議会主催の、恒例の太平山山開き清掃市民登山に参加した。

この事業には、秋田支部公益的の事業活動の一つとして協力している。

太平山旭又登山口には、秋田市募集の参加者三十五名とスタッフ、サポーター等五十数名が参集。

秋田市以外の上小阿仁村からの参加者、河辺地区からの参加者もあり、旭又登山口は大賑わいだった。

パラパラと小雨降る中、「降らねばいいともなあ。」と雨の心配をしながら、八時三十分、三班編成で出発。

豪雪か、老朽化か、旭又の橋が崩壊しているの、藪刈りをした迂回路を通り、赤倉沢に架かる橋を渡り、しばらく進むと、旭又からの登山道と合流する。

昨夜から明け方まで降った雨のせいで、歩道はドロドロの箇所もあり、私は長靴だったが、登山靴の方々は気の毒だった。

ガスで景色は見えなかったが、あやめ坂では足元にヒメシヤガがまだ咲いていて、可憐な花が目を惹きつける。

ヒメシヤガを移植し、見守って、乾季には毎日水やりに通ったという、故人となった山仲間のことを偲びながら急坂を登る。

太平山の登山道は、昔と比べると、随分と痛んでいるような気がする。あちこちが雨や雪のため崩れ、幾つか

あった木段はすっかり壊れ、台風や老朽化による倒木が歩道を塞いでいた箇所を避けて通るため、小さかった迂回路がすっかり立派な歩道に変わっている。

そんなことを感じながら、マイルソウ等の野草を楽しみながら登り、御手洗の水場に到着。皆さんはもう奥岳に向かっていた。ここで一休み。ガスで辺りは良く見えず、それに寒い。

石川祐子さんと私は、ここで下山したいと申し出た女性参加者と共に、下山することになった。

無線連絡によれば、七曲近くの水場は水量が多く渡渉状態。山頂部は雨、ガスがかかり、景色は全く見えず、参籠所は満員とのことであった。

全員山頂到着十二時頃の連絡。雨で歩道状況が悪かったためか、例年より遅いなあと思った。

私たち三人は、滑りやすい足元に気を使いながら安全第一でゆっくりと下った。天候もだんだん回復し、青空も見え始めた。

旭又登山口も近くなったころ、時間に余裕があったので、ミズ等の山菜を採る。山の恵みの調理方法など教えあいながら、午後三時近く、無事に駐車場に着いた。

ここで、安全祈願祭を終え、記念撮影後、午後一時頃に下山開始した皆さんを待つ。無線で御手洗着、山の神着と連絡が入る。赤倉沢の橋を過ぎたという連絡、皆さんの到着はすぐだ。

三班、二班、一斑と次々に到着。全員が無事に到着し、解散となったのは、十六時三十分を過ぎていた。

秋田支部参加者  
佐々木民秀 三浦真六 堀井弘  
鎌田倫夫 佐藤博 安藤金栄  
今野昌雄 鈴木裕子 石川祐子  
柴田勤 熊谷光子

※太平山以外の山の清掃登山、親子登山、登山道の整備等に協力、実行委員として活動している会員の方は、事務局までお知らせください。会報に掲載し、周知したいと思います。また、本会から公益的の事業として評価されます



— 本会総会開催 —

平成二十九年通常総会が、六月二十四日午後二時から、東京都千代田区の主婦会館プラザエフで開催された。今野支部長出席。

第一号議案・平成二十八年度の事業報告、第二号決算報告が承認された。

第三号議案の役員選任の件では、十五名の理事が承認された。

平成二十九年の事業計画・予算案については、三月理事会で承認され、内閣府に提出している内容についての説明がなされた。

(二十九年通常総会資料及び  
会報「山」七月号参照)

会員数情報 平成二十八年度末

◎会員数	四九八三名
名誉会員	十名
永年会員	三八九名
終身会員	五六名
通常会員	四二四六名
青年会員	六六名
夫婦会員	一三三名
団体会員	八十三名
秋田支部会員数	五十九名
(平成二十九年四月一日現在)	

# 平成二十九年 度 登 山 道 等 再 整 備 事 業

秋田県・自然保護課主催、山の日事業の一環として行う「平成二十九年 度 登 山 道 等 再 整 備 事 業」は、県の依頼により、秋田支部も後援、参加することになった。そのうち、七月十五日に実施した、①太平山丸舞登山道、②八幡平秋田駒ヶ岳登山道の二つの事業に、支部有志が参加した。

## 丸舞登山道整備 鎌田倫夫

平成二十九年七月十五日(土)、七時三十分、集合場所のユフォーレ駐車場には秋田市内の社会人山岳会と仁賀保高校山岳部が集合し、受付後、各自の自家用車に分乗して悪路の林道を丸舞登山口に移動した。

参加者四十名ほどが全員揃ったところで秋田県生活環境部自然保護課の高橋課長から挨拶があり、続いて地元河辺山歩会の太平山管理員である石塚稔代表からこの日の作業工程についての説明があった。

丸舞登山コースは、数年前まで登山者に利用されていたが、コース沿いの橋が決壊したため通行止めとなっていた。私は四十年前程前に登ったのを最後に訪れてない。途中新しく架け替えられた橋が二カ所あり、ここが決壊した場所だと知る。他の橋も古く、負荷が

で渡った。

沢から離れて間もなく炭鉱跡地に着き、炭鉱最盛期の説明があった。ここは滝沢の大滝に通じる分岐になる。過去に鬼子沢と滝沢の合流地点から沢登りして弟子選のクサリ場取付き点に登ったことがあるがこの大滝への分岐は記憶になかった。

秋田支部参加者の内五名がこれより不帰ノ大滝までの歩道刈り払いのため別れる。



丸舞登山口で記念撮影

刈り払い前の屋根上は敷同然であり延べ人数七十名程、延べ日数は十日程要したという。山頂小屋に宿泊しながらの作業もあったそうだ。コースでの刈り払いは全て終了しており、河辺山歩会の苦勞を知ると共に感謝申し上げます。

新しい案内板と倒れた標柱を立て直し、時間の関係上「不帰ノ沢」との合流地点で引き返すことになった。全員無事下山後、閉会式を行い、記念撮影をして解散した。

秋田支部参加者  
丸舞登山道 鎌田倫夫 石川祐子  
安藤金栄 熊谷光子

八幡平秋田駒ヶ岳登山道 今野昌雄

## 不帰ノ大滝への歩道整備 佐々木 民 秀

県主催「登山道等再整備事業(ポランティア事業)」の一環として、太平山丸舞登山道の刈り払いがあり、七月十五日に実施された。

刈り払いの実施日が近づいた頃、石塚太平山管理員から、前もって河辺山歩会で刈り払いを実施しており、当日までにはほぼ終了する予定、とのこと、多くの参加者で踏み固めしたい旨の連絡があった。

当日は参加者も多かったため、秋田支部では、炭鉱後から未整備の「不帰ノ大滝」へのコースを担当することとし、有志五名で刈り払いと倒木処理や道印のテープ、ロープ等を取り付けした。「不帰ノ大滝」は、太平山中でもダイナミックな美しい滝であり、落差は十五m程、一度は観て頂きたい滝でもある。

また、この滝全区域では、かつて私が調査した時、大小の滝が二百ヶ

所程あり、太平山中では最も険しい沢の一つでもある。別名を「不帰ノ沢」と呼ばれ、古くから、迷って入り込んだら生きては帰れないとの伝説があり、過去には数件の実例もある。尚、戦後初(昭和二十六年)として、保坂隆司名誉顧問がこの沢の核心部を探索している。

参加者 佐々木民秀 堀井弘  
佐藤博 鈴木裕子  
畠山秀雄(前太平山管理員)



不帰ノ大滝の前で

行事参加報告

◎秋田県山岳連盟総会

四月二十三日(日)、午後一時三十分からイヤタカで開催。

役員・代議員(十二名)出席。  
・二十八年事業報告決算承認、十九年度事業計画予算案等の審議承認。  
・クライミングが東京オリンピック正式種目に決定したこと。

・「日本山岳協会」が「日本山岳スポーツクライミング協会」と変更したことにより、各都道府県の山岳連盟も名称変更するのについては、連盟の理事会で協議した結果、名称の変更はしない、等の説明がなされた。

支部関係出席者 今野昌雄 福田光子

三浦俊雄 長岡幸則 後藤浩二

◎中央地区山岳協議会総会

六月二十七日(木)、午後六時三十分から赤沼・三吉神社、社斎館で開催。十二団体十七名出席。

・二十八年事業・決算の報告、十九年度の事業、予算等を審議・承認  
・規約改正は、年会費徴収を承認。  
・事業として、山開き市民登山にリーダーの派遣、太平山歩道の倒木処理等。

・秋田県山岳遭難発生状況の報告。  
・二月十九日、太平山中岳で発生した遭難事故についての報告等。

支部関係出席者 佐々木民秀 堀井弘

佐藤博

事務報告

◎一月四日 本会からの補助金に関する二十九年事業計画を本会に提出。(石川会計担当)

◎二月十八日 本会からの補助金に関する二十八年事業報告、並びに支部決算報告を(領収書を添付)本会に提出。(石川会計担当)

◎二十八年支部山行の登山届提出について本会に送信。(鎌田委員)

◎四月十二日 本会に「日本山岳会支部に関する規程第十二条」に基づく報告を提出。(総会を開催したことを議案を添付して報告するもの)

◎六月十二日 全国三十二支部及び本会に「秋田山岳一〇四号」を郵送。

東北・北海道地区支部及び本会支部事業委員会へ「支部だより(2)(3)(4)(5)を郵送。

◎六月二十二日 本会インターネット委員会に、支部会報「山岳」を本会ホームページに掲載を依頼。

◎九月五日「各支部での登山に関する講習会の実施状況に関するアンケート」の回答を支部事業委員会に送信。

◎九月五日「山の日事業イベント」に関する報告を、山の日事業委員会に送信。

◎九月六日「平成二十九年支部事業に関するアンケート」回答を支部事業委員会に送信。

元会員・川島由夫氏の遺品みつける

平成二十六年九月、羽後朝日岳に登山中、部名垂沢で遭難したと思われていた川島由夫氏のザック、雨具等が、遭難から三年が経過した本年五月下旬に、地元山菜取りの方に発見され、仙北警察署を通じて、遺族に引き渡されていたことを七月に入ってから側聞。

今野支部長、佐々木顧問、佐々木委員が仙北警察署等に問い合わせし、確認された。

九月四日、捜索に協力した支部有志で、遺品が見つかった部名垂沢二ノ沢の出合いに献花し、ケルンを築き、冥福を祈った。なお、ご遺体等は確認されていない。

九月四日は、川島氏の遺稿集「足跡」の中で、夫が尊敬していたアルベルト・シュヴァイツァーの命日を、「山に還った夫の日と決めた」と、川島夫人が記していたことによるものです。

参加者 佐々木民秀 今野昌雄

佐々木長秀 鈴木裕子

鎌田倫夫 田口義信

会員外 藤原健



献花  
二ノ沢の出合

訃報

北林 嘉鶴子 氏

No.七五八四 終身会員

秋田支部顧問

病氣療養中のところ、

平成二十九年七月十七日逝去

(享年九十五才)

謹んでお悔やみ申し上げます  
本会から弔電を、秋田支部から弔電と献花をお届け致しました  
これまでの支部運営のご協力に深く感謝し、心からご冥福をお祈りいたします。



訂正おわび

・会報一〇四号 二頁上段  
四月八日総会  
出席者に奥村清明会員を加える。

・会報一〇四号 四頁三段  
一月二十一日開催役員会と  
二月十六日開催役員会との  
出席者に柴田勤委員を加える。

ご出席下さいましたのに校正の段階で気付くことが出来ず、申し訳ありません。編集子も会報を担当して早や十二年、後期高齢も目の前、何かと注意力が不足してきており、そろそろ交代をお願いしたいと思っております。  
(鈴木裕子)